

配水池不断水清掃工法別比較

	ロボット工法	ダイバー工法	断水清掃（参考）
工法概要・内容	ロボットによる底部汚泥吸引・点検	ダイバーによる底部汚泥吸引・点検	配水池の水を完全に抜いて普通作業員が入って点検・清掃
清掃条件	厚い大量の汚泥には不向き。ハンチ・ピットなど段差があるところは無理。また柱が多いRCタンクでは操作が困難。	厚い汚泥・コンクリート礫の破片などあらゆる状況でも清掃可能。	2槽式で無い場合、配水管のバイパスを行うか給水断水を行って水を抜く。池が空になったら空気の給排気を確認しながら作業。
仕上がり	ロボットのホースが動きを制約するので柱・制流板などがあると汚泥が少し残る可能性有り。壁も清掃不可。	側壁中上部以外はあらゆる部分をきれいに仕上げられる。	底部・側面ともに作業員が十分な清掃を行えるが高所・天井は足場が必要。
衛生度	比較的清潔。	人間が入るための管理は必要。	作業後塩素消毒必要 ～水道法規定有り～
池内点検	有効なのは底部のみ。側壁はうまくできない場合有り。	底部・側壁・天井・ピット・バルブなどあらゆる部分を任意の角度で点検可能。	底部・側面は観察が自由に行える。高所・天井には足場が必要。
経済性	比較的安いと言われるが操作員の熟練度によっては仕上がりにばらつきが出る。	若干高いが仕上げが保証できるのでやり直しの必要がほとんど無い。	安い。水道水を捨てる場合はその分加算する必要有り。
安全性	ロボットがトラブルに巻き込まれない限り比較的安全。	ダイバーの管理には熟練を要する。	空気の給排気の確認必要。水抜き・バイパス時など切替時には濁水発生可能性有り。
総合評価	底部が平らで柱の少ないPCタンク向き。点検はあまり出来ない。短期計画清掃向き。	あらゆる状況で仕上がりが均質でトラブルにも対処可能。漏水チェックを含む総合的な点検には最適。隔年清掃向き。	2槽・2池式で配水池の水を安全に抜けるならば安くて確実な方法。滞留時間減るので急いで作業する必要あり。